

# よもすがら 終夜 名古屋を燈す

## 01.Upper-level plans 上位計画・概観図

名古屋はリニア中央新幹線開業時を目標として早期にリニア効果が実現できるように、四つの重要な交通結節機能の確保と空間形成を行っている。

- 1.名古屋駅前広場周辺の再整備
- 2.リニア駅周辺の再整備
- 3.さきしまタイプ24地区・名駅南地区へのアクセス改善等の整備
- 4.名古屋駅とのアクセス性の向上（高速度道路）

この上位計画に従いながら夜間景観に注目し、更なるウォークアブルな仕掛けを提案する。



## 02.Background/Challenge



名古屋駅はターミナル駅であるにもかかわらず、歩きたくなる魅力が少なく感じた。リニア開通時までに世界の目的地となる。名古屋の新しい賑わいを行わなければならない。今の名古屋駅周辺は「人が集い、居る広場空間の不足」「歩行者空間としては不十分」「公園・緑地が少なくまとまった緑が少ない」「人通りが差がある」「明暗の差が激しい（明るすぎる）」「変化のない空間」といった課題が見つかった。

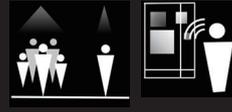
### Current Situation



## 03.Setting Area /Around Nagoya Station



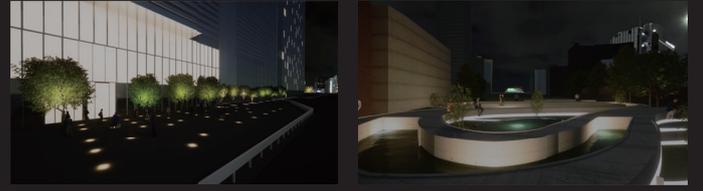
## 04.Design Diagram 呼応する照明



名古屋駅は毎日 860,000 人以上が通過する日本有数の忙しい交通の中心地である。時間帯や通りによって人の密度は異なり、歩き方も変化する。行き交う人の言葉に呼応し変化する景観、人の疎密によって変化する景観。人の行動に呼応しながら適切な照明をまちに灯すことでエネルギー消費を抑えながら持続的なウォークアブルなまちを提案する。

## 05.Technology LPS (Local Positioning System)

ローカルポジショニングシステム (LPS) は、ローカルフィールドまたはエリアに関連するオブジェクトの位置または位置情報を取得するために使用される技術である。ローカルでのみ機能し、特定のローカル周辺のオブジェクトの位置のみを提供できる。このシステムを外環境でも実現可能となった時、人の疎密に応じて照明の照らす量を変えることができると予測される。



A. 言葉と呼応する街灯 / 名駅通り

センサーが言葉を読み取って照明が変化する看板の機能を兼ねた街灯を各商業ビルの前に再構築する。言葉が発することによって店のサインが反応し、光る。街の情報に魅力的に視覚化することは歩く人をワクワクさせる。また、連続して街灯が並ぶことで道の誘導性をもたらし、散策する楽しさが増えこれらの街灯による夜景は新たなウォークアブルシティへの一つの軸となる。



B. 人の疎密と呼応する新たなシンボル / 名古屋駅前広場・ロータリー

名古屋駅の新たなシンボルを広場の中心に再構築する。名古屋の街の魅力を増強させ、みんなが大事にするあかりとなる。夜間の空間性の強度を変化させ地域の資源をより可視化させることで、地域の特徴や魅力を増幅し多くの人が訪れる場となる。また、非常に最低限の夜間照明を点灯させ空間認知や避難方向など誘導を助ける。このシンボルを目指して歩きたくなるまちを形成する。



C. 木陰に灯る憩いの光 / KITTE 前広場

駅から少し離れた場所にアイススポットとなる憩いの空間を創出する。グラフィックスポットライトを用い、木陰の演出を行うことで視認性を高め人々が集まる場となる。木の成長によって光のカタチは変化し、同じ風景を見ることのない光となりピーターを増やす効果が期待される。



D. リニア駅周辺面の整備と運動した夜間景観形成

リニア開通に伴い駅上部の緑地空間を整備され、散策や休憩・休息を目的とした新たな人の流れが発生し、滞在時間が増加する。この場所に曲線を用いたランドスケープを設置すると同時に街の夜間景観を最大限に可視化する。経路に沿って光源を連続的に配置することで、経路が読んでいることを認識しやすく歩行者が誘導されやすくなり、人々が休息しながら広場全体を歩いてゆく。



E. 人の疎密と呼応する夜の散歩コミュニティ

名古屋駅周辺の歩行空間を再整備する。太陽光で点灯する照明を歩道に埋め込む。照明に備え付けられているセンサーによって人の量を感じ、人の疎密に応じて照らされる照明の量も変化する。これらの照明によりリズムが生まれ散策する楽しさが増え、ウォークアブルシティの核となることが予測される。